

【エクアドル内政・外交：2010年9月】

1. 概要

- 9月 5日 コレア大統領、訪日
- 8日 コレア大統領、訪韓
- 13日 チリ上院議員外交委員会委員、当国訪問
- 14日 非正規鉱山労働者による抗議活動
- 24日 エクアドル・ニカラグア貿易協定締結のための第一回交渉
パティーニョ外相、国連総会出席
- 30日 公務員法に反対する警察官による騒擾事件が発生

2. 内政

(1)9月30日騒擾事件

9月30日午前7時頃、公務員組織法案に反対する警察官による抗議ストライキが全国各地で発生した。国家警察キト第一管区本部でも、800名を超える警察官が抗議活動を行なった。午前9時半頃、コレア大統領は現場に急行し、本部中央庁舎二階の窓越しから「大統領を殺したいのなら、ここにいる。殺してみろ。私は一歩足りとも引下がらない。」と怒鳴った。緊張は極度に達し、警察デモ隊は本部を後にしようとする大統領に催涙弾を放った。大統領の身柄は警察病院へと移された。午後1時頃、政府は大統領令第488号を以て非常事態宣言を発令した。午後9時頃、総勢700名の国軍及び特殊警察が、防弾ヘルメット・ガスマスクを装着し車椅子に乗ったコレア大統領を警察病院から救出した。大統領府前の中央広場には3千名を超える大統領支持者が詰め掛け、大喝采を以て大統領を迎え入れた。

午後9時50分、大統領府バルコニーから大統領は支持者に向け演説し、犠牲者に対し一分間の黙祷を捧げ、12時間に及ぶ騒擾事件が幕を閉じた。

(2)エクアドル大学生連盟学生による抗議行動

8日、グアヤキル市内において、高等教育法案による政府の大学自治介入に反対するエクアドル大学生連盟(FEUE)の学生等2000名がデモ行進を実施した。デモ隊は途中通行中の車両のフロントガラスを破壊するなど徐々に過激化し、グアヤス県庁前に到着した。県庁前にて制止を無視し県庁に突入を試みたデモ隊と警官隊が衝突し、デモ隊の投石により警察官1名が負傷した。

(3)非正規鉱山労働者による抗議活動

14日、サモラ・チンチペ県に所在するKinross社、Ecuacorrientes社、Aurelian社等の多国籍企業の鉱区を撤退させられた約1000名の非正規鉱山労働者が、同県パキシヤ地区を占拠し、コンギメ鉱山に続く道路に溝などを掘り交通を遮断した。

約2000名の警察、軍の部隊が事態の鎮圧にあたり、非正規労働者は同地区から退去させられた。その際両者で投石、催涙ガス等を使用する衝突が発生し、非正規労働者6名、警察官1名の計7名が負傷した。

(4)コレア大統領右膝手術

20日、コレア大統領はキト市内のカルロス・アンドラデ・マリノ・デ・キト病院で右膝の手術を行った。内視鏡で膝内部を診断し、軟骨がすり減っていたため膝全体に人工装具を入れた。右膝の手術は今回で3回目となる。大統領は数日間入院し、入院先から執務を行った。

3. 外交

(1)対日関係

5日～8日、コリア大統領は日本を公式訪問した。コリア大統領には、8大臣、3長官、4国会議員、報道関係者26名、企業家32名等が同行した。6日午前、天皇陛下との御会見、昼に菅総理と首脳会談及び昼食会を行った。午後には、日本記者クラブで記者会見の後、西岡参議院議長を表敬した他、お台場の風力発電所を視察した。

7日午前には、経団連中南米地域委員会朝食会に参加し、エクアドル投資セミナーでの挨拶の後、国連大学で「21世紀におけるラテンアメリカの挑戦」と題する公演を行った。午後には、広島を訪問し、広島平和祈念公園視察、湯崎広島県知事表敬を行った。8日朝、広島から韓国に出発した。

(2)対韓関係

8日、コリア大統領は韓国を訪問し、李明博韓国大統領と会合した。両国は関係強化の希望を表明すると共に発展のための科学技術への投資の重要性を強調した。李大統領は、コリア政権の政策により高水準の経済成長が達成されることを祈念した。会合の一貫として、電力分野、及び税関分野向上のための協力協定が署名された。

また、コリア大統領は、韓国開発研究所(KDI)を訪問し、国家発展のための国家プロジェクトの存在の重要性を強調。

9日、訪韓中のコリア大統領は、ニコラス・トゥルヒーリョ・エクアドル投資計画機構理事長を初の駐韓エクアドル大使に任命する旨決定した。

(3)対ホンジュラス関係、

1日、コリア大統領は、メキシコ北東部国境沿のタマウリパス州サンフェルナンド近郊に於いて発生した虐殺事件の生存者であるエクアドル国籍のララ氏(18歳:Luis Freddy Lala Pomavilla)が、もう一名ホンジュラス国籍の生存者がいると述べた旨公表した。

これを受け、カナウタイ・ホンジュラス外務大臣は、コリア大統領がホンジュラス国籍の生存者がいることを明らかにしたことにつき「無責任極まりない。匿っていた目撃者を、このような無責任な形で明らかになってしまったことを残念に思う。生存者やその家族の命への危険を考慮した慎重な行動が必要だったのではないだろうか」と批判した。

ホンジュラス政府による批判に対し、当国外務省は公式声明(1日付)にて、「エクアドル政府はコリア大統領に対する、非合法的なホンジュラス政府の受け容れがたい批判を全面的に拒絶する。この声明はエクアドル政府がクーデター首謀者を処罰しないホンジュラス政府を承認していないという立場を示すものである。更に、ホンジュラス政府は和解、憲法及び民主主義の回復、統治を十分に保障していない。他方で、メキシコ政府はプレスリリースを通じ、コリア大統領が述べたことを認めたている。」旨発表した。

(4)対ニカラグア関係

24日、エクアドル・ニカラグア貿易協定締結のための第一回交渉が行われた。両国は11月の締結を目指しており、第二回目の交渉は10月下旬にマナグアで行われる。今回の交渉ではニカラグアが自国側の対象品目リストを提出した。エクアドルは次回交渉で提出する。

(5)対コロンビア関係

17日、パティーニョ外相及びコルデロ国会議長はコロンビアを訪問し、オルギン・コロンビア外相と会談した。コロンビアの南米諸国連合(UNASUR)設立条約批准について協議した。

(5)対チリ関係

13 日、ヘルナン・ラライン上院議長を始めとするチリ上院議員外交委員会委員が当国を訪問した。一団はパティーニョ外相、ポンセ国防大臣、コルデロ国会議長他と会談し、ペルーとの領海問題等について協議し、チリ側の主張について理解を求めた。

また、ラライン上院議長は国連にヤスニITTプロジェクトプロジェクト支援金として10万ドルを供与した旨発表した。右資金はチリの震災復興基金から拠出した。

(6) 国連総会(於:NY)

24 日、パティーニョ外相、エスピノサ自然文化遺産大臣、ムニョスUNDP中南米・カリブ地域担当課長はニューヨークの国連総会に出席し、ヤスニITT信託基金の説明を 20 ヶ国の代表に対し行い支援を求めた。会合にはチリ、ポルトガル、加、西、印、伊の閣僚、仏・気候変動担当特別大使、独外務省中南米・カリブ担当課長他が出席した。総会参加国は本件への関心を示し、エクアドルの革新的な試みを評価した。

(7) 対米関係

24 日、国連総会に出席中のパティーニョ外相はヴァレンズエラ米国務次官補と会談した。会談では、特に貿易面での協力の強化、保健、教育分野での技術協力の増加、移民問題に対する総合的な対応、投資問題に関する南米での仲裁メカニズムの創設について協議し、外相より率直な直接対話と相互尊重などについて協議した。

。